

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 29年 6月 1日			
所属学部・研究科	総合科学部／ 2年次 (留学開始時点)			
留学先大学	(USAC) Universidad de Pais Vasco (国名：スペイン )			
所属学部・学科等名	USAC の留学生用の過程			
在籍身分	留学生			
留学期間	平成 28年 9月 5日～平成 29年 5月 16日			
<b>1. 渡航について</b>				
ビザについて	ビザの種類： 学生ビザ			
	ビザ申請先： 在日本スペイン大使館			
	取得方法, 提出書類： 大使館にメールで問い合わせた後、長期留学用の申請書などを、メールの添付ファイルにて送ってもらい、書類提出と受け取りのため2回の出頭が必要。手数料：7,816円 (日本国籍の場合は無料)			
	手続きに要した日数： 2、3ヶ月			
その他必要な事前手続き	航空券購入、保険加入、クレジットカードの申し込み (キャッシュパスポートが便利)			
出国年月日	平成 28年 8月 30日			
経路	東京～北京～マドリッド			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">その他</span> ) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	オリエンテーションは2日間に分けられ、治安、授業、ホームステイ、生活面で気をつけることなどの細かい説明と、簡単なスペイン語のクラス分けテストが行われた。			
帰国年月日	平成 29年 5月 27日			
経路	アムステルダム～モスクワ～東京			
<b>2. 留学経費について</b>				
所要経費	総額	144万	円	
	内訳	渡航費	14万	円
		保険料	8万4,410	円
		教科書代	1万5000	円
		宿舍費 (ホームステイ)	75万	円
		食費	上記に含む	円
		その他 ( 旅行費 )	45万	円
( 費 )		円		
( 費 )		円		
<b>3. 授業について</b>				
2016年 前期	9月 7日	～	12月 13日	

2017年 後期	1月 18日 ~	5月 16日
年 学期	月 日 ~	月 日
年 学期	月 日 ~	月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	USAC用の授業のため、スペイン人と同じ授業はない。先生はスペイン人。4つのレベルに分けられており、1, 2は文法が主、3は <b>Composicion</b> (作文) が主、4はほぼネイティブの学生向け。そのほか、会話、スペイン文化、ビジネスの授業もある。	
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ※有の場合、所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること	
学術面に関する後輩へのアドバイス	日本にいる間に、文法の基礎ができているならば、レベル2から始めて、後期にレベル3の授業をとることが最適だと思う。	
<b>4. 生活等について</b>		
(1) 留学先の住居について		
住居の種類	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input checked="" type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ( )	
住居の広さ	アパート3LDK	同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 2人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input checked="" type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input checked="" type="checkbox"/> その他 (個人部屋に、ツインベッド、学習机、収納、シャワー、トイレがあった )	
住居費	1ヶ月当たり 630ユーロ (現地通貨)	約7,8000円(1ユーロ 120円)
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
留学先での住居全般に関するアドバイス	ホストファミリーとの相性はあるが、スペイン語の練習、文化、生活様式を学ぶには、断然家族と住むことを勧める。家族との外出や、現地の人と話す機会も多く、よりスペインでの生活が充実したものになる。	
(2) 医療について		
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった	
入院した場合	により 日入院	
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった	
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
掛け金は	9ヶ月間 8,4410 円 補償額 死亡 1000万 円 その他 ( )	
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
有の場合、その種類、回数、費用、受けた医療機関名		
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:	

留学先国の医療事情 (日本と比較して)	特に違いはない。	
留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	特にお手拭のようなものは出されないため、常にレストランやバルでは、トイレで手を洗ったり、除菌ジェルを持ち歩いていると良いだろう。朝と昼とで寒暖差が激しい季節があり、服装には気を使う必要がある。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
移民の多い地域には近づかない、夜遅くには一人で出歩かない、知らない人に声をかけられても無視したほうが良い。日本ほど安全な国ではないことを肝に銘じ、常に気を張っていくことが必要。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
Bar では pintxos というフードがひとつ1ユーロほどで手に入る。野菜、果物、パンなどの食品も日本と比べると大分安いので食費はそんなにかからないだろう。道には移民の方が多く、夜遅くに女子一人で歩くことはお勧めしない。しかし、スペインは日照時間が長く、夜に出かけることが酒趣味といっても良いくらい、街は遅くまで明るく、常に人で賑わっているため、街中に住む場合は、騒音対策が必要。また、スペインは昼食・夕食の時間、スーパーの開店時間が日本とは異なるため、慣れる必要がある。		
<b>5. 帰国後の進路について</b>		
卒業予定年月	平成 31年 3月	(当初の卒業予定年月 平成 31年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に )	
現在の状況および今後の予定・進路等	DELE(スペイン語検定)を受検 スペイン語と英語を生かし、就職したい。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	USAC の場合、スペイン語の授業がメインのため、単位を交換するのが難しいだろう。4年で卒業したい方は、2年次での留学を強く勧める。	
<b>6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等</b>		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
<b>7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)</b>		
<p>出国前に日常会話程度のスペイン語を身につける努力は必ず必要だ。スペインにいと、英語が通じず、スペイン語のみで会話しなければならない場面も少なくない。積極的に現地の人々と交流し、使えるスペイン語を学ぶこと。そして、困ったときに助けてくれたり、精神的な支えになるのは、やはりホストファミリーや友人である。一人で悩むことはせずに、他の人を頼って、安全で充実した学びの多い留学にしてほしい。</p>		

## 学習の概要に関するレポート

今回の留学の最大の目的は、スペイン語の運用能力を身につけることであつた。留学開始時、私は2年生で、正直、大学に入ってから1年半のスペイン語の授業のみで、スペインに留学するにはとても不安があつた。そのため、留学前の1ヶ月ほど、大学のネイティブの先生と毎週授業以外で30分ほど、日常会話の練習をした。それでも、実際にスペインでホストファミリーと会ったときには、スペイン語を話すスピードについていけず、とても焦つたのを覚えている。授業では、前期に文法を中心としたスペイン語と、バスク地方の文化を学ぶ授業などをとつた。英語での授業もあり、他のUSACの生徒はほとんどアメリカ出身なので、彼らを通して英語を学ぶこともできた。スペイン語の授業は、文法を一通り日本で学んでいたもので、先生の説明が理解しやすく、さらに質問をすることで、あやふやだった部分や、抜けていた知識の補完など、より文法を定着させることができた。後期には、レベルアップしたスペイン語と、様々な社会問題をテーマとした会話や、スペインの文化・社会・映画などの授業をとつた。後期の授業からは全てスペイン語で受講し、より専門的な単語などにも触れた。スペイン語の授業は、作文が主で、毎回300語以上で、テーマは、「幼いころの記憶」、「写真から連想する物語」など様々で、小説を読み、その内容と感想をまとめる練習もあつた。先生の細かい添削と、書き直しを繰り返す中で、日本語の言い回しをどのように使えるスペイン語で表現するかなど、参考書を読むだけでは学ぶことのできない、実用的な知識を得ることができた。授業中には、文法の復習をしつつ、会話が主だった。私のクラスは少人数であつたため、質問もしやすく、一人ひとりに気を配つたとても丁寧な授業だった。

留学した当初こそ、自分のスペイン語にかなり不安はあつたが、授業での理解、友達やホストファミリーとの会話での実践、そして日常で疑問に思つたことは授業で質問、というサイクルの繰り返りで、徐々に使えるスペイン語が身についてきた。最終的には、スペイン語を使つての旅行には何の支障もないし、ネイティブと話していても、ほとんど理解ができるまでに成長した。何よりも私の成長に驚いたのは、ホストファミリーだった。分からないことがあればすぐに質問し、未解決のまま放置しないこと、気に入った表現があれば、恐れず使っていくことが上達の鍵であつたと思う。自分のスペイン語が通じると、さらに学習したい意欲が湧いてくるものだ。私の弱点は、冠詞・語彙力であると思う。日本語にはない男性・女性名詞や単数・複数それぞれに対応する冠詞が、頭では分かっている口に出すとどうしても抜けてしまう。これを指摘してくれたのはスペイン語の先生であり、自分ではあまり重要視していなかったが、やはり冠詞が抜けてしまうと不自然なのだということが分かつた。スペインにいる間こそ、積極的に話して自分の弱みを知り、日本に帰国してからの勉強に生かしていけるのだ。根気強く指導していただいたUSACの先生方、そして毎日会話の練習相手になってくれたホストファミリーあつてこそ今の私の成長があると思う。心から感謝したい。

## 生活の概要に関するレポート

留学中の生活はあっという間で特に現地の生活や家族に慣れてきた後期は、時間が過ぎるのが早かったように感じられた。始めこそ、朝晩は寒く、昼間は暑い気候の変化や、疲れが溜まっていたせいで、風邪をひいたり、なかなか友人を作ることができず悩むこともあった。しかし、やはりスペイン語が上達していくにつれて、家族と過ごす時間、外で友人と過ごす時間が多くなり、充実した日々を過ごすことができた。私のホストファミリーはお母さんと12歳の娘の二人であった。人によってはファミリーとの相性に悩み、家を変える人もいたが、私のファミリーはとても陽気な人たちで、一緒に誕生日を祝ったり、ビーチ行ったり、年末年始も過ごしたりと、毎日がとても楽しく、充実した時間を過ごすことができた。基本的にはUSACの生徒はアメリカ人が多く、彼女たちにとって私が初めてのアジア人の受け入れだったという。お母さんは旅行することが好きで日本についてもとても興味を持っていたため、プレゼンテーションなどをつくり日本の文化や観光地の紹介をした。娘もすぐに簡単な日本語を覚え、私にもバスク語（スペイン語とは異なる現地の言語）を教えてくれた。掃除、洗濯をはじめ、あらゆることをお母さんが全てやってくれ、私はその分勉強や外出に時間を割くことができた。料理もとても美味しく、毎回何が食べたいか尋ねてくれ、私の気に入った料理はレシピを教えてくれた。また、祖父・祖母も別のUSACの学生を受け入れており、学校に行く初日は彼らと一緒にいった。家族が多く、様々な職業で働く人たち（キャビンアテンダントなど）と話すこともできた。精神的にも何度も支えてもらい、今では彼女たちを本当の家族のように感じている。

学校では、特にスペイン語の上達した後期により多くの友人をつくることができた。授業以外でもアメリカ人とスペイン語で話し、授業終わりにビーチやバルへへ行ったりした。スペインは日照時間が長く、午後8時でも十分明るく、夜遅くまで通りは人で溢れている。また、バルで隣にいた見ず知らずの人と話が弾んだりすることも多い。人が温かいという点ではプラスだが、十分に用心しないと、危険な目にあってしまう恐れもある。十分な危機管理が不可欠だ。旅行中は特に用心が必要だ。ヨーロッパは国境間の移動が簡単なため、週末に簡単に隣国へ旅行することができる。旅行中には様々な国籍の人と話したり、新しい文化を学んだり、憧れの場所を訪れることもできた。旅行中、私がスペイン語を話せることに驚き、とても喜んでくれた人もいた。やはり、留学中は積極的に話しかけることが、新しい友人作りや、言語の練習になると思う。不安なことも多いと思うが、挑戦してみないと上手いかは分からないし、きっかけも掴めない。留学が実現したことで、教科書では学べない、現地の生活や実態を知ることができた。語学を学ぶ上で、机と向き合うことも大事だが、実践と挑戦の大切さを今回の留学では実感することができた。また、新しい人との交流は視野の拡大や、自分自身について再考するきっかけを与えてくれたと思う。

留学中の写真 丸尾亜樹



